

SOTL の実践共同体としての

「教職課程担当教員養成プログラム」

平成 26 年度「教職課程担当教員養成プログラム」教育・研究活動報告

山口 裕毅（広島大学）

はじめに

教職課程担当教員養成プログラムは、研究者養成を目的とした大学院の博士課程教育に加え、大学における教職課程を担当する十分な力量を兼ね備えた大学教員を養成するためのプログラムである。

本プログラムは、資質の高い学校教員の養成という社会的期待に応えるため、平成 21 年度に開始された（文部科学省平成 19-21 年度大学院教育改革支援プログラム Ed.D 型大学院プログラムの開発と実践—教職課程担当教員の組織的養成—）。平成 22 年度以降は、「教職課程担当教員養成プログラム」として活動を継続・発展させている。

本プログラムでは、①確かな研究力に加え、大学教育において実践的な指導力を発揮できる人材、②高等教育を含む教育臨床に的確に対応できる人材の育成を目指している。すなわち、将来、教職課程を担当する大学教員、すなわち「先生の先生」を組織的に養成しようとするものである。博士課程後期 1 年次生（D1）は、前後学期の 2 つの授業（「教員養成学講究」と「大学教授学講究」）を履修し、大学教員に求められる基礎的な知識を習得する。博士課程後期 2 年次生は、広島大学で前学期・後学期各 1 回、計 2 回の教壇実習に取り組む（学内プラクティカム）。博士課程後期 3 年次生は、広島大学以外の大学において教壇実習に取り組む（学外プラクティカム）。平成 26 年度の活動状況は次に記すとおりである。

1. 「教員養成学講究」(D1)

D1 の前期に開講される「教員養成学講究」の授業では、日本の教員養成の歴史や諸外国の教員養成の状況を手がかりにして日本の教員養成の現状と課題を分析する視角を獲得する。具体的には、履修生は様々な教職科目の授業シラバスを分析する。このとき、各大学の便覧やプロ

表 1. 「教員養成学講究」シラバス分析・作成

	分析対象シラバス	作成シラバス
安喰(D1)	道徳教育の指導法	道徳教育の指導法
	教育の理念・歴史・思想 (教育史系)	
相馬(D1)	幼児・児童及び生徒の心身の発達 及び学習の過程	教育基礎論
	教育の理念並びに教育に関する 歴史及び思想(教育哲学系)	

グラム詳述書、教職科目用のテキストを参照することで考察を深めていく。また、自ら教職科目のシラバスを作成し、2年次の教壇実習に備える。具体的な分析対象科目や履修生が作成したシラバスは表1の通りである（抜粋）。

2. 「大学教授学講究」(D1) 表2. 「大学教授学講究」レポート

D1の後期には、「大学教授学講究」の授業で大学における授業方法論や教授技術を学ぶ。平成26年度の履修生は表2で示す期末レポートを著した。

「教員養成学講究」や「大学教授学講究」において、履修生は大学で授業を行うための素養を養っていく。新たに獲得された知見は履修生自らのプラクティカムの基礎になること

はもちろん、他の履修生にとってもプラクティカムを実施したり、授業理念を深めていくための機会を提供する。

	期末レポート	内容
安喰 (D1)	事例を用いた教育方法の比較 —専門職倫理教育に焦点をあてて—	医師養成課程におけるシミュレーション教育と教職課程におけるケースメソッドとの比較
相馬 (D1)	専門教育においてライティングをいかに扱いるか—実践の分析を通して—	ライティングを活動の中心にした専門科目の授業を分析(4事例) 書く活動、書かれたものを通して1)専門領域の用語や言い回しを学生に獲得させる授業、2)専門的な問題と学生自身の問題を結びつけようとする授業の2類型に分類

3. 学内・学外プラクティカム (D2・D3)

D2とD3の履修生が行うのが学内外での教壇実習とその前後に行なわれる検討会である。これらは総称してプラクティカムと呼ばれる。D2は広島大学の授業で、D3は近隣の別の大学の授業でプラクティカムを行う（学外プラクティカムでは、教壇実習より数週間前に授業観察を行い、教壇実習に備える）。平成26年度は下記7件のプラクティカムが行なわれた。

表3. プラクティカム実施状況

実施時期	実施先	実施科目	授業テーマ	実習生
学外プラクティカム				
7月7日	広島文化学園大学	教育原理	我々は「教育的関係」をいかに捉えてきたのか	中居 舞子 (D3)
7月8日	広島文化学園大学	教育原理	就学前教育を観る、子どもを観る	境 愛一郎 (D3)
学内プラクティカム				
7月14日	広島大学	教育の思想と原理	日本における教員養成の歴史と課題	久恒 拓也 (D2)
7月17日	広島大学	教育行政学	社会主義国家である中国の教育行政制度はどのようなものであるか	張 磊 (D2)
12月22日	広島大学	教育と社会・制度	日本における学校の成立と展開	久恒 拓也 (D2)

1月20日	広島大学	教育経営学	A校長のC中学校の事例	山本 遼 (D2)
1月26日	広島大学	教育と社会・制度	社会主義国家である中国の教育行政制度はどのようなものであるか	張 磊 (D2)

学内・学外プラクティカムともに、授業前の検討会では授業者の指導案をもとに教職員・院生による討議がなされる。授業後の検討会では授業者による振り返り、受講学生のコメントシート等をもとに討議がなされる。

プラクティカムは、教壇実習を行う履修生自身にとっての成長の機会であるとともに、プラクティカムの参加者にとっても、授業を観察する視点を養ったり、建設的なコメントをし、討議する力量を形成するための場となっている。

4. 教職教育ポートフォリオ (D3)

平成26年度は、2件の「教職教育ポートフォリオ」が提出された。履修生は、3年間のプログラムを通じて積み上げてきた学びの軌跡を一つのポートフォリオとしてまとめるとともに、自らの授業理念(ティーチング・フィロソフィー)を述べる(表4)。本プログラムのポートフォリオは、履修生自らの学習履歴としてのラーニング・ポートフォリオと大学で授業を行う力量を示すティーチング・ポートフォリオの双方の性質を併せもっている。

表4. 授業理念(抜粋)

境愛一郎 (D3)	中居舞子 (D3)
「自身の研究活動を資源として、子どもの経験や彼・彼女らをとりにまく環境に対する強い探究心と、それらへの素朴な理解を実践へと昇華する創造力を培う」(授業理念)	「教壇に立つ責任を強く持つことのできる教師を育てたい。教師として、児童生徒と真摯に向き合い、彼らの将来に願いを持つことが、今求められる教師像」(授業哲学)

おわりに

本プログラムでは上述の活動以外にも、履修生が共同研究を行ったり、国内外の先進事例の視察を行う。平成26年度の活動成果は本報告書に収められている。こうした活動を行う本プログラムは、担当教員の指導・助言を受けながら博士課程後期の院生が教育実践に関する学術的探究活動を通じて教授・学習過程の改善を試みるSOTL (Scholarship of Teaching & Learning) の実践共同体といえるのではないだろうか。